



Cisco Unified Presence の管理ページでの プレゼンス ゲートウェイの設定

プレゼンス ゲートウェイの目的は、設定済みのゲートウェイから Cisco Unified Presence のプレゼンス エンジンにプレゼンス ステータス情報を転送できるようにすることです。次のゲートウェイがサポートされています。

- Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイ : Cisco Unified Communications Manager サーバをプレゼンス ゲートウェイとして設定できます。Cisco Unified Presence サーバから Cisco Unified Communications Manager に SIP トランク (Cisco Unified Communications Manager 上に設定されている) を経由して SIP 登録メッセージが送信されます。これにより、Cisco Unified Presence サーバは、電話のオンフック/オフフック ステータスなどのプレゼンス情報を受信できます。
- Microsoft Exchange (予定表連携用) ゲートウェイ : Microsoft Exchange サーバ (Microsoft Outlook 用) をプレゼンス ゲートウェイとして設定できます。これにより、Cisco Unified Presence サーバは、ユーザ単位のプレゼンス情報 (予定表/会議ステータス) を収集し、そのユーザのプレゼンス ステータスに取り込むことができます。
- 「[プレゼンス ゲートウェイの設定](#)」 (P.12-1)
- 「[プレゼンス ゲートウェイの検索](#)」 (P.12-7)
- 「[プレゼンス ゲートウェイの削除](#)」 (P.12-8)

プレゼンス ゲートウェイの設定

[[プレゼンス ゲートウェイ \(Presence Gateways\)](#)] ウィンドウを使用して、Cisco Unified Presence クラスタに関連付けられたゲートウェイを設定します。

始める前に

フェデレーション ドメイン エントリをデータベースに追加すると、そのフェデレーション ドメインのプレゼンス ゲートウェイ エントリが自動的に追加されます。これらの設定手順を手動で実行する必要はありません。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
プレゼンス ゲートウェイを追加する	<p>a. [プレゼンス (Presence)] > [ゲートウェイ (Gateways)] の順に選択します。</p> <p>b. [新規追加 (Add New)] をクリックします。</p>
プレゼンス ゲートウェイを更新する	<p>a. 「プレゼンス ゲートウェイの検索」(P.12-7) の説明に従ってレコードを検索します。</p> <p>b. 必要に応じてレコードを編集します。</p>

ステップ 2 表 12-1 の説明に従ってプレゼンス ゲートウェイの設定値を入力します。

表 12-1 **プレゼンス ゲートウェイの設定値**

フィールド	説明
プレゼンス ゲートウェイ タイプ (Presence Gateway Type)	<p>リスト ボックスから次のゲートウェイ タイプを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CUCM : Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイ • Outlook:Outlook 予定表連携用の Microsoft Exchange ゲートウェイ <p>(注) Cisco Unified Presence の管理ページに、選択したゲートウェイ タイプに該当するフィールドが表示されます。</p>
説明 (Description)	<p>このプレゼンス ゲートウェイの説明</p> <p>最大文字数 : 255</p>
プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)	<p>関連付けられたゲートウェイの Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名) または IP アドレス</p> <p>(注) Outlook ゲートウェイ タイプを設定する場合は、有効な証明書チェーンを Cisco Unified Presence にアップロードする必要があります。[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドの値は、この証明書チェーンのリーフ証明書の件名 CN 値と一致している必要があります。この件名 CN 値は、常に Exchange サーバの FQDN または IP アドレスのいずれかになることが予想されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Cisco Unified Presence で DNS を設定した場合は、リーフ証明書の件名 CN 値は FQDN または IP アドレスのいずれかになると考えられます。[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドの値は、リーフ証明書の件名 CN 値と一致している必要があります。 - Cisco Unified Presence で DNS を設定していない場合は、リーフ証明書の件名 CN 値は IP アドレスになります。件名 CN 値が IP アドレスでない場合は、件名 CN 値が Exchange サーバの IP アドレスになるようにこの Exchange 証明書を生成し直す必要があります。[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドの値は、リーフ証明書の件名 CN 値と一致している必要があります。

表 12-1 プレゼンス ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
アカウント名 (Account Name) (Outlook のみ)	Microsoft Exchange サーバに接続する場合に Cisco Unified Presence で使用されるグローバルなアカウント名。
アカウント パスワード (Account Password) (Outlook のみ)	Microsoft Exchange サーバのアカウント パスワード
パスワードの確認 (Confirm Password) (Outlook のみ)	Microsoft Exchange サーバのアカウント パスワードを確認します。このパスワードは、[アカウント パスワード (Account Password)] エントリと一致している必要があります。
プレゼンス ゲートウェイ ポート (Presence Gateway Port) (Outlook のみ)	Microsoft Exchange サーバの接続先のポート デフォルト値 : 443 (注) Cisco Unified Presence と Microsoft Exchange との統合は、セキュアな HTTP 接続を介して行う必要があります。ポート 443 を使用し、それ以外のポートに変更しないようにすることを推奨します。

ステップ 3 Outlook 予定表連携用に Microsoft Exchange ゲートウェイを選択した場合は、サーバ情報が正確であること、およびサーバが稼動していることを検証します。

ステータス	説明	操作
Exchange の到達可能性 (ping 可能) (Exchange Reachability (pingable))	成功した場合、Exchange サーバは到達可能 (ping 可能) です。	<ul style="list-style-type: none"> ステップ 4 に進みます。
Exchange の到達可能性 (到達不可能) (Exchange Reachability (unreachable))	<p>Exchange サーバの到達可能性チェックに失敗しました。</p> <p>[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドは、Exchange サーバに対して ping を実行する場合に使用します。フィールド値が正しく入力されていないか、またはお客様のネットワークに何らかの問題 (ケーブリングなど) があるため、サーバが到達不可になっていると考えられます。</p> <p>(注) Exchange プレゼンス サーバを初期設定する場合、UI で [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドの値を件名 CN 値にする必要はありません。IP アドレスまたは解決可能なホスト名を入力できます。ただし、後の設定プロセスで、この値によって件名 CN 値が解決されます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ネットワークを介して Exchange サーバに到達できるように [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドに適切な値 (FQDN または IP アドレス) が設定されていることを確認します。 [保存 (Save)] をクリックして変更を確定します。 ステップ 4 に進みます。

ステップ 4 次の説明に従って、Exchange サーバのステータスを確認し、Exchange SSL 証明書チェーンの正否を判別します。

ステータス	説明	操作
Exchange SSL 接続/ 証明書の確認成功	成功した場合は、Exchange サーバへの SSL 接続が確認済みとなります。	<p>a. [表示 (View)] をクリックして、証明書の詳細を表示します。</p> <p>b. [閉じる (Close)] をクリックします。</p>
Exchange SSL 接続/ 証明書の確認失敗 - 証明書がチェーンに 見つからない	<p>Exchange へのセキュアな接続を確立するために Cisco Unified Presence から要求された 1 つまたは複数の証明書が欠落しています。</p> <p>証明書ビューアを使用すると、欠落している証明書の詳細を表示できます。</p> <p>欠落している証明書を Exchange サーバから手動でダウンロードし、Cisco Unified OS の管理 UI を使用してこれらの証明書をアップロードする必要があります。</p>	<p>a. 欠落している証明書を表示するには、証明書ビューアを使用して次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - [設定 (Configure)] をクリックして証明書ビューアを開きます。 - [証明書チェーンをそのまま使用 (Accept Certificate Chain)] をオンにします。 - [保存 (Save)] をクリックします。 - 証明書チェーンの詳細が表示されます。ステータスが [見つかりません (Missing)] になっている証明書を書き留めておきます。 - 証明書ビューアを閉じます。 <p>b. 証明書チェーンを完成させるには、欠落している証明書を Exchange サーバから手動でダウンロードし、Cisco Unified OS の管理 UI を使用してこれらの証明書をアップロードする必要があります。証明書チェーンを完成させるには、次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 欠落している証明書ファイルを Exchange サーバからダウンロードします。 - Cisco Unified Presence を管理する目的に使用しているコンピュータに欠落している証明書ファイルをコピーまたは FTP 転送します。 - [ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウンリストボックスから [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] を選択し、信用証明書のユーザ名とパスワードを入力します。 - [セキュリティ (Security)] > [証明書管理 (Certificate Management)] を選択します。 - 必要な証明書を Presence Engine (PE; プレゼンス エンジン) 信頼証明書として Cisco Unified Presence にアップロードします。 - Cisco Unified Presence の管理ページの [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateways)] ウィンドウに戻り、証明書ビューアを開き直して、証明書チェーン内のすべての証明書のステータスが [確認が成功しました (Verified)] になっていることを確認します。

ステータス	説明	操作
Exchange SSL 接続/証明書の確認失敗 - 件名 CN が一致しない	<p>[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateways)] フィールドの値は、必ず証明書チェーン内のリーフ証明書の件名 CN 値と一致している必要があります。</p> <p>この問題を解決するには、証明書ビューアを使用するか、または [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateways)] フィールドに正しい値を入力します。</p>	<p>a. 証明書ビューアを使用して件名 CN の不一致を解決する場合は、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - [設定 (Configure)] をクリックして証明書ビューアを開きます。 - [証明書チェーンをそのまま使用 (Accept Certificate Chain)] をオンにします。 - [保存 (Save)] をクリックします。 - 証明書チェーンを保存すると、[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドの値が更新されたことが通知された後、[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] ページが更新されます。[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] ページの更新が完了したら、証明書ビューアを閉じます。 - [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドの値が更新されていることを確認します。 - Exchange SSL 接続/証明書のステータス パラメータの値が [確認が成功しました (Verified)] になっていることを確認します。 <p>b. または、次の手順に従って、[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドエントリの正否を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドに正しい件名 CN 値を再入力します。 - [保存 (Save)] をクリックします。 <p>(注) [プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドは、Exchange サーバに対して ping を実行する場合に使用しません。入力したホスト (FQDN または IP アドレス) は、IIS 証明書の件名 CN と完全に一致している必要があります。</p>

ステータス	説明	操作
Exchange SSL 接続/ 証明書 - 不正な証明書	<p>証明書に不正な情報が含まれているため、その証明書が無効になっています。</p> <p>通常、このエラーが発生するのは、証明書に不正な署名が含まれている場合です。この場合、証明書は必要な件名と一致しますが、公開キーと一致しません。この状況は、ピアで証明書が再生成されたにもかかわらず、Cisco Unified Presence サーバにまだ古い証明書が残っている場合に発生すると考えられます。また、証明書に未サポートのコンポーネント（サポートされていないアルゴリズムやキーのタイプなど）が含まれている場合にも、このエラーが発生することがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ログをチェックして、このエラーの原因を特定します。 このエラーの原因が不正な署名の場合は、Cisco Unified OS の管理 UI を使用して、古い証明書を Cisco Unified Presence から削除し、新しい証明書をアップロードする必要があります。 このエラーの原因がサポートされていないアルゴリズムの場合は、Cisco Unified OS の管理 UI を使用して、サポートされているアルゴリズムを含む新しい証明書をアップロードする必要があります。
Exchange SSL 接続/ 証明書 - ネットワーク エラー	無応答タイムアウトなどのネットワーク上の問題が原因で確認が実行されない場合があります。	<ul style="list-style-type: none"> Exchange サーバへのネットワーク接続を検証し、適切な IP アドレスとポート番号で Exchange サーバに接続できることを確認します。
Exchange SSL 接続/ 証明書の確認失敗	何らかの不特定の原因により確認に失敗したか、または到達可能性を実行できなかったため確認に失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> デバッグ ログ ファイルを調べて詳細を確認してください。

ステップ 5 データを保存するには、次のいずれかの操作を実行します。

- a. ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
- b. ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- Cisco Unified Presence システム トラブルシュータで予定表連携の問題と解決策の詳細を確認できます。[診断 (Diagnostics)] > [システム トラブルシュータ (System Troubleshooter)] の順に選択します。
- システム ダッシュボードを使用すると、Cisco Unified Presence で予定表連携用ゲートウェイを追加したり、予定表連携統合に対応したユーザを表示したりすることもできます。[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] の順に選択します。

関連項目

- 『*Integration Guide for Configuring Cisco Unified Presence with Microsoft Exchange Server*』
- 『*Cisco Unified Communications Operating System Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』

プレゼンス ゲートウェイの検索

ネットワークにプレゼンス ゲートウェイ サーバが複数存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のゲートウェイを検索できます。

手順

- ステップ 1** [プレゼンス (Presence)] > [ゲートウェイ (Gateways)] の順に選択します。
- ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 4](#) に進みます。
- ステップ 3** レコードをフィルタリングまたは検索するには、次のいずれかの操作を実行します。
- 最初のリスト ボックスから検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のリスト ボックスから検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** 表示されるレコードのリストから、次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

操作の目的	操作
レコードを表示する	該当するレコードのリンクをクリックします。
レコード リストのソート順序を逆にする	リストのヘッダーにある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

関連項目

[「Web ブラウザ セッション」 \(P.1-7\)](#)

プレゼンス ゲートウェイの削除

手順

- ステップ 1** 該当するゲートウェイを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するゲートウェイを選択します。
- ステップ 3** ゲートウェイを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

操作の目的	操作
選択したレコードを削除する	<p>a. 該当するレコードをオンにします。</p> <p>b. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウィンドウの下部にある [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。 • ウィンドウの左上隅にあるツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。
すべてのレコードを削除する	<p>a. [すべてを選択 (Select All)] をオンにします。</p> <p>b. [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。</p>

トラブルシューティングのヒント

ゲートウェイが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

関連項目

[「プレゼンス ゲートウェイの検索」 \(P.12-7\)](#)